

頸部リンパ節結核の1例

山本純平 下出祐造 宮澤 徹
辻 裕之 鈴鹿有子 三輪高喜
金沢医科大学 感覚機能病態学（耳鼻咽喉科）

79歳女性 3ヶ月前より右頸部に腫瘤を自覚した。徐々に増大傾向を認め、初診時には3cm大の皮下腫瘤を認めた。FNAを施行し、黄褐色調の排膿を認め、細胞診は陰性であった。結核も疑い、小川培地での培養とPCRも同時に施行し、PCRにて陽性所見を認めた。

胸部XPでは右下肺野に小結節を認めたが、Z-N染色では喀痰への排菌は認めず、外来でのINH、EB、RFPによる3者併用療法を開始した。

その後、リンパ節からの排膿は停止し、縮小傾向を認めている。

耳鼻咽喉科領域の結核感染症について若干の文献的考察を加えて報告する。